

二〇二〇年五月二十九日

畳なはる青嶺翠黛際立ちて  
時鳥そろそろと思ふ夕散歩  
水遊びおむつ一つで恵比須顔

明日香

うつき

智恵子

青葉風亀 一列に 甲羅干

やよい

コンバイン 音高々と麦の秋

三刀

二〇二〇年五月二十八日

夕闇の埠頭を叩く卯波かな  
故郷の潮の香りの神輿起つ  
青天井山湖に満ちし涼しさよ  
花うつぎ国道なれどつづら折  
大仏の印を覗けり熊ん蜂

素秀

素秀

はく子

うつき

なつき

二〇二〇年五月二十七日

麦畑焦がしバターを延べしごと  
遠雷に早足となる橋の上  
待ち合わせ日傘回すは合図らし  
谷戸晴れて植田に雲の遊びをり  
どくだみの白敷きつめて裏鬼門  
四阿の日裏の暗さ苔の花

明日香

こすもす

宏虎

隆松

せいじ

たか子

二〇二〇年五月二十六日

街路樹に虹立ててゆく散水車  
手の甲にペタリ冷たし雨蛙

ひのと

豊実

日報に大漁と記す南風

ひのと

露草や陸墓の主の寧かれと

ぼんこ

雨晴れて膨らむ木々の青葉かな

満天

二〇二〇年五月二十五日

石舞台越え 高空へ揚羽蝶  
あめんぼうぶつかりさうでぶつからず  
緑風へ双手ひろげて深呼吸

明日香

せいじ

菜々

二〇二〇年五月二十四日

閑伽桶を伝ふしづくや著莪の雨  
偏屈の今日は機嫌や豆の飯  
新緑を湛え城濠満てりけり  
どくだみと油の匂ふ鐵工所  
あるなしの風に切り揉む竹落葉  
汐風にふくらむ漁夫の夏衣

素秀

うつき

宏虎

素秀

満天

ひのと

二〇二〇年五月二十三日

ビル街の隙間を縫ふてつばくらめ  
漕ぎ出せる舳先に夏の月上がる  
駆け足の子らの背押して風五月

ひのと

素秀

たか子

毎日句会みのる選・二〇二〇年五月三十一日